

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	661005	事務事業名	救急救助業務推進事業			
担当部・課名	消防本部 警防課	評価者(課長)	吉野 恭弘	評価責任者(部長)	村野 行徳	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	400201	分野	4安心安全	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	2消防・救急体制の充実強化			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)消防力の充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	市民	事業の目的(意図)	・救急救助業務に係る資機材の整備や訓練及び教育を行うとともに、医療機関等との円滑な協力関係を構築することで、周南市における救急救助体制の充実を図る。
事業の内容(手段)	・救急救助資機材の整備と教育訓練の実施 ・緊急消防援助隊の機能強化と訓練の参加 ・応急手当の普及啓発		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	実績値	達成度(%)
救急救命士再教育実施者数	山口県が定めた救急救命士就業後年64単位の再教育の履修	人	目標値	39.0	39.0	39.0	
			実績値	39.0	39.0		
			達成度(%)	100.0%	100.0%		

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	12,909	12,265	10,580	10,957	11,000
(予算額)	うち一財	千円	10,908	12,264	10,579	10,956	10,999
(決算額)	直接事業費	千円	11,990	13,440		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円	10,908	13,440			
	正職員人件費	千円	16,706	16,799			
	人工数	人	2.28	2.28			
	支出コスト	千円	決) 28,696	決) 30,239			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	○高齢化が進み救急業務が増加する中で、救急業務の質の維持向上がもたられている。 ○大規模・多様化する災害等に対応するため、消防救助体制の充実強化が求められている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 ○救急救命士の教育及び研修期間中の勤務人員確保に苦慮している。 ○緊急消防援助隊に係る人員確保と、複雑多様化する災害に対応するための教育訓練の充実が必要である。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	○救急救助資機材を有効かつ効果的に整備するとともに、職員の教育訓練の充実を図る。 ○周南地域MC協議会を通じて、搬送医療機関等との円滑な調整を推進し救急業務の質の担保を図る。	評価責任者コメント	高齢化に伴う救急業務の増加、複雑多様化する救助業務に対応するため必要不可欠な事業である。今後も市民のニーズ、時代の流れに沿った事業を積極的に展開すること。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	救急救命士の再教育	救急救命士の就業後に必要な再教育を実施する。	全ての現場活動救急救命士に、年間64単位の再教育を履修させた。新たな取組みとして救急シミュレーション訓練を実施した。	549	0.17		
				否			
②	救命処置に関する事後検証の実施	救急業務で実施された救命処置を医学的見地から検証し、救急業務の質を担保する。	救命処置に係る指示・事後検証数171件	855	0.10		
				否			
③	一般市民に対する応急手当の普及啓発	一般市民に対して講習会等を行い、応急手当の普及啓発に努める。	・上級救命講習 1回 8人 ・普通救命講習 78回 1,889人 ・入門コース 35回 1,041人 ・救急講習 58回 1,816人	497	0.90		
				否			
④	医療関係機関等との連携	医療関係機関等との情報共有を図り、相互の連携強化に努める。	・周南地域メディカルコントロール協議会の開催 ・連絡協議会等への参加	618	0.38		
				否			

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
⑤	救急救助資機材等の維持管理	車両も含めた資機材や消耗品等の管理を行う。	救急救助業務に必要な資機材や消耗品の選定から購入、管理を行った。	6,677	0.11		
				否			
⑥	緊急消防援助隊の強化	緊急消防援助隊の編成や出動等に関する管理を行う。	九州北部豪雨災害応援出動 ・派遣日数 19日間(延べ) ・派遣総数 58隊 244人(延べ)	1,571	0.32		
				否			
⑦	消防救助技術大会の調整	救助技術大会を通して、救助隊員の技術向上を図る。	・県大会 5種目 23名出場	19	0.10		
				否			
⑧	各種訓練の企画、調整	あらゆる災害を想定した訓練を行うことで、隊員の現場対応能力の強化を図る。	・県総合防災訓練 ・救済救護訓練(NBC災害) ・徳山下松港水際テロ対策訓練 ・救急シミュレーション訓練	2,654	0.20		
				否			

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	641009	事務事業名	救急業務高度化推進事業			
担当部・課名	消防本部 警防課	評価者(課長)	吉野 恭弘	評価責任者(部長)	村野 行徳	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	400201	分野	4安心安全	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	2消防・救急体制の充実強化			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)消防力の充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	市民	事業の目的(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士等の養成や救急資機材の整備を行い、病院前救護体制の高度化を推進する。 大規模複雑化する災害等に適切に対応する。
事業の内容(手段)	○高規格救急自動車の更新整備と救急救命士養成等による救急業務高度化の推進 ・高規格救急自動車の更新整備1台 ・救急救命士の養成2名、指導救命士の養成1名 ・気管挿管実習5名(新規4名、再教育1名)		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度				
					救急救命士の養成	新規養成した数	人	目標値	1.0	2.0	1.0
								実績値	1.0	2.0	
								達成度(%)	100.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	197,623	43,694	41,076	43,714	44,830
	(予算額) うち一財	千円	14,674	8,594	3,801	7,114	9,605
	直接事業費	千円	189,179	42,708		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	(決算額) うち一財	千円	15,936	9,608		救急救命士新規養成の人数増加	
	正職員人件費	千円	6,814	6,484			
	人工数	人	0.93	0.88			
支出コスト	千円	決) 195,993	決) 49,192				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	○救急業務の質の維持向上が求められており、救急隊員の教育及び救急救命士の資格認定者の養成が必要となっている。 ○大規模複雑化する災害に即応するため救助技術及び救助資機材の整備が必要となっている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 ○救急救命士、指導救命士等の計画的な養成が必要である。 ○複雑多様化する救急救助業務に対応するため、高度な装備や資機材の導入、及び専門的な知識・技術を修得した人材の育成等、計画的な取組みが必要である。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	○救急救命士等の計画的な養成を進める。 ○救急救助資機材等の計画的な更新整備を進める。	評価責任者コメント	救急救助業務の質の維持向上が求められている中で、関係機関等との連携も含め重要な事業となっている。国・県の動向、市民ニーズ等を踏まえた事業推進に努めること。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	救急救命士(新規)の養成	全ての救急隊に救急救命士が配置できる体制を確保する。	救急救命士(新規)2名の養成	4,928 否		0.07	0.00
②	気管挿管認定救命士の養成と再教育	現場活動救急救命士の全員を気管挿管認定救命士とする。2年度内に気管挿管実施成功例がない気管挿管認定者について、技量の低下による事故防止を図るために実施する。	気管挿管認定救命士4名の養成 気管挿管認定救命士1名の再教育	649 否		0.10	0.00
③	処置拡大(2項目)認定救命士の養成	現場活動救急救命士の全員を処置拡大(2項目)認定救命士とする。	処置拡大(2項目)認定救命士6名を養成したことに伴い、現場活動救急救命士の全員が処置拡大(2項目)認定救命士となっている。	否		0.12	0.00
④	指導救命士の養成	救急救命士を指導する体制を確保し、再教育の効率化を図る。	指導救命士1名の養成	460 否		0.07	0.00

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
⑤	周南地域メディカルコントロール協議会の運営	病院前救護における医師の指示・指導・検証体制の充実を図る。	協議会1回、事後検証会3回、作業部会4回		否	0.42	0.00
				36,671			
⑥	高規格救急自動車の更新整備	老朽化した高規格救急自動車を、更新計画に基づき更新する。	中央消防署に配備されている高規格救急自動車1台の更新整備		否	0.10	0.00
				36,671			

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	641032	事務事業名	消防水利施設管理事業			
担当部・課名	消防本部 警防課	評価者(課長)	吉野 恭弘	評価責任者(部長)	村野 行徳	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	400201	分野	4安心安全	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	2消防・救急体制の充実強化			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)消防力の充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	市民	事業の目的(意図)	消防水利を効果的に設置するとともに、適切に維持管理することで消防力の強化を図る。
事業の内容(手段)	「消防水利の基準」の他、関係法令に基づき、消防水利についての整備及び開発を図るとともに、維持管理を適正に行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度	
					目標値	4.0	4.0	5.0
					実績値	4.0	4.0	
					達成度(%)	100.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	30,592	23,110	19,420	27,848	43,325
(予算額)	うち一財	千円	7,992	7,410	7,620	8,448	12,125
直接事業費	千円	25,214	15,895		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	5,314	4,495		消火栓布設替工事の増加	
正職員人件費	千円	6,814	4,568				
人工数	人	0.93	0.62				
支出コスト	千円	決) 32,028	決) 20,463				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	東日本大震災等を踏まえて、耐震性の防火水槽等バランスの取れた消防水利の整備が必要となっている。		課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 消火栓及び防火水槽の老朽化により、修繕費用の増加が見込まれる。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	水利不便地区には防火水槽を含めた消防水利の確保と、水道事業に連動した消火栓の更新整備を行うとともに、新たに消火栓を設置し災害に強い街づくりを推進する。		評価責任者コメント	事業開始からの推移を鑑みて、消火栓に偏らず耐震型防火水槽など、バランスの取れた消防水利の確保が必要となっている。効率的かつ効果的な消防水利の整備を進めること。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	消防水利施設の維持管理	水利施設が常に適正に使用できるよう管理する。	定期的な点検と併せて、減水による補水などを行う。	30 否	0.22	0.00	
②	消防水利標識の更新	消防水利の存在を明示させることで、付近の障害物を排除し、円滑な消火活動を図る。	老朽化した消火栓の枠塗装69件、防火水槽の標識の更新17件	567 否	0.10	0.00	
③	防火水槽の新設及び改修	消防水利が不足しがちな地域に防火水槽を整備するとともに、老朽化した防火水槽を改修する。	防火水槽の改修4件(クラック改修、フェンス改修)	1,717 否	0.10	0.00	
④	消火栓設置及び維持管理負担金	水道基盤整備事業や配水管耐震化に併せて、消火栓の計画的な整備を図る。	水道配管の布設、布設替えに併せて、消火栓の設置及び改修を行う。	13,581 否	0.10	0.00	
⑤	開発行為に伴う消防同意	開発行為に伴う同意申請に対し、審査及び協議を行い、適正な設置を行う。	開発行為同意申請処理12件 着工完成申請処理4件	否	0.10	0.00	

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード	641005	事務事業名	通信指令管理事業			
担当部・課名	消防本部 警防課	評価者(課長)	吉野 恭弘	評価責任者(部長)	村野 行徳	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	400201	分野	4安心安全	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	2消防・救急体制の充実強化			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)消防力の充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	・市民	事業の目的(意図)	・消防緊急通信指令システム及び消防無線設備の安定稼働を実現することにより、通信指令体制を確立し、市民を災害から守る。
事業の内容(手段)	・各種災害の受付、指令及び情報伝達を迅速・確実に行い被害の軽減を図る。 (1) 消防緊急通信指令システムの保守管理 (4) 消防緊急通信指令システムのデータ管理(OA含む。) (2) 消防無線設備保守管理 (5) 広報活動 (3) 119番の受付から指令		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	実績値	達成度(%)
保守管理事業	消防緊急通信指令システム及び消防無線設備の保守管理回数	回	回	目標値	11.0	10.0	10.0
				実績値	11.0	10.0	
				達成度(%)	100.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	88,040	83,936	79,727	93,470	83,936
(予算額)	うち一財	千円	52,673	48,031	44,552	55,754	45,000
直接事業費	千円	87,289	84,317		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	52,673	58,112			
正職員人件費	千円	74,296	73,238				
人工数	人	10.14	9.94				
支出コスト	千円	決) 161,585	決) 157,555				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	・消防緊急通信指令システムの更新(平成26年度) ・消防救急無線のデジタル化完了(平成25年度) ・119番通報の多様化・多言語化が図られている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 ・多重無線のスプリアス規格への対応が必要となっている。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	・消防緊急通信指令システムの安定稼働を実現し、消防救急体制の充実強化を図る。	評価責任者コメント	緊急通報が増加する中、通信指令業務を円滑に進めるため通信指令体制の強化充実を図る必要がある。ハード・ソフト両面の機能強化を推進すること。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考 (※)オンコール保守:電話連絡によって保守業者が即時に対応する。
-------------------------------------	----------------------------------------

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	消防緊急通信指令システム保守委託業務	消防緊急通信指令システムの保守を適切に行い、安定した指令業務を行う。	定期の保守及びオンコール保守(※)による早急な対応を行うことにより、部品の交換、修理等を適切に行った。	31,860	1.20	0.00	
				否			
②	消防緊急通信指令システム機能管理業務	常に装置を最適な状態で運用するため、テスト等を行い、不具合発生時の応急処置の体制を構築する。	指令業務を維持するための日常点検、データのバックアップ、装置の定期クリーンアップ等を行うとともに、職員の技術向上を図る訓練を実施した。	3,300	1.20	0.00	
				否			
③	消防無線設備等保守管理業務	消防無線設備の保守を適切に行い、安定した指令業務を行う。	定期の保守及びオンコール保守(※)による早急な対応を行うことにより、部品の交換、修理等を適切に行った。	31,104	1.20	0.00	
				否			
④	消防無線設備等点検業務	電波法に基づく点検等を行い、常に装置を最適な状態で運用する。	日常点検、定期点検及び各中継局等における非常用発電機の定期点検を実施した。	3,300	1.20	0.00	
				否			

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
⑤	119番受付指令業務	119番の受信から現場到着、事案終了までのあらゆる災害業務において、迅速かつ的確に支援業務を推進する。	8,812件の119番通報について適切に指令業務を行った。また、通報受理時、救命処置が必要な傷病者に対する関係者等への口頭指示を実施した。	5,500	2.00	0.00	
				否			
⑥	データ等管理業務	常に最新のデータをシステム入力することにより、消防活動の支援業務を円滑に行う。	現地踏査等(25回)を含め、消防水利、危険物、建物情報、災害時要支援者等のデータ管理を行い、消防活動の支援強化を充実した。	2,821	1.00	0.00	
				否			
⑦	統計・照会業務	各種災害等の分析を行い、関係機関からの照会に対応する。	各種統計(救急・無線)を作成し、国・県に報告するとともに、広報及び普及活動に活用した。	2,900	1.05	0.00	
				否			
⑧	広報・企画調整業務	市民の防火・防災意識の高揚及び119番通報の重要性を周知する。	「119番の日」等を活用し、119番の通報要領について啓発を実施した。	2,132	0.76	0.00	
				否			
⑨	防災情報調整業務	防災情報の収集伝達手段の多様化に向け、関係機関との調整を行う。	市の防災情報収集伝達システムの構築に向けて消防施設との連携について調整を実施した。	1,400	0.33	0.00	
				否			